

第4次亀山市消防力充実強化プラン 骨子案に対する意見への回答

【共通意見】

該当 ページ	項目	意見	回答
	計画全体	本市の消防職員数は国の定める配置基準を下回っているが、今回の骨子案には現状の消防職員数や国の基準との比較、定員に対する評価等に関する記述がない。 また、消防団員の充足率の低下を課題として挙げているが、基本施策では人材育成に留まっている。 このようなことから、消防職員数や消防団員数について現状分析を示し、どのように人材を確保し、適正に配置をしていくのか、施策の方向に位置づけるべきである。	消防職団員数の現状については、「施策の大綱ごとの現状と課題」に明記します。また、人材確保や適正配置については、施策の方向「消防・救助活動の充実」や「消防団活動の充実」「消防団組織の再編」において取り組んでまいります。

第4次亀山市消防力充実強化プラン 骨子案に対する意見への回答

【個別意見】

該当 ページ	項目	意見	回答
6	3 プランの基本的な考え方 (2) 施策の大綱 ア 施策大綱ごとの現状と課題	1 ページに記載の過去5年間の火災・救急・救助の状況において、「救急」が5年間で約3割(約600件)増加していることは、課題である。 また、3ページ記載の第3次プランの成果指標では、火災現場活動に関する平均所要時間の目標値4分00秒に対し、実績値は5分54秒と、目標値を下回っているが、なぜ遅くなったのかを分析すべきである。消防力を測るのであれば、時間を重視する。市街地と中山間地域との時間のギャップも、課題である。 これらの課題や現状分析を本項目で示しつつ、第3次プランの目標値を下回った未達項目を、第4次計画にどう反映させたかを示すべきである。	第3次プランで設定した成果指標における課題等について、第4次計画への反映状況を明確にするため「施策の大綱ごとの現状と課題」に明記します。
		1 消防体制の充実強化において、南海トラフ等の大規模自然災害への言及があるものの、施策の方向では広域連携に関する記述に留まっている。自然災害が頻発している状況を踏まえ、通常の火災や救急対応とは異なる、大規模自然災害に即した具体的な体制や訓練計画についても記述すべきである。	大規模自然災害に即した具体的な体制や訓練計画などについては、最終案において、取組項目として明記する予定です。
		消防DXに関する視点が乏しい。ICTやAI、ドローンの活用なども消防体制の充実強化として取り上げるべきである。	消防DXに関する視点については、最終案において、取組項目として明記する予定です。